

令和7(2025)年度  
事業計画書

「誠実で信頼される人に」  
*Become a Sincere and Reliable Person*

すべては生徒のために  
—生徒が輝く学校づくりを目指して—

# 目次

## 令和7（2025）年度

### I 事業計画の策定に当たって

---

1. はじめに	.....	1
2. 経営方針	.....	1
3. 中・長期の課題と展望	.....	2

### II 事業計画書

---

1. 法人	.....	4
2. 鈴鹿高等学校	.....	6
3. 鈴鹿中等教育学校	.....	9

### III 収支予算の概要

---

1. 主な事業	.....	12
2. 収支予算の要旨	.....	13

# I 事業計画の策定に当たって

## 1. はじめに

令和6年度は、平成29年度以降取り組んできた教学改革、生徒募集の強化、教育環境整備事業の継続を進め、学園を挙げて改善活動を展開してきました。

令和7年度は、生徒確保については、さらに教学面の魅力・品質向上（教育力、進路実績、クラブ活動の活性化等）を重点課題として展開し、高等学校のコース制改革の完成及び中等教育学校の確立を受け、その成果と課題の検証に基づき改善に取り組み、生徒・保護者・地域の満足度を上げ、入学定数を確保していきます。

また、教育を取巻く社会情勢は、大きく変化してきており、少子化、グローバル化の進展、多様化する大学入試制度、高大接続改革等への更なる対応が必要となります。本学園が生徒・保護者・地域に信頼される教育機関として今後も末永く存続していくために、全員参画で新しい価値の創造ができる組織運営を行い、内部留保金の確保による将来への安定力強化も併せた経営改革を図ります。

## 2. 令和7（2025）年度経営方針

在校生・卒業生・教職員全員が建学の精神「誠実で信頼される人に」を体現し、社会貢献に努め、グローバル時代を生き抜く人材を輩出するために、教職員全員が熱意と確かな専門性を持ち、生徒一人ひとりに合った教育機会を提供することをミッションとして、次の方針で活動を展開します。

### 1. 生徒、保護者、地域の満足度向上

#### (1) 教学品質の向上・体制の改善

- ① 高等学校コース制の完成、中等教育学校の確立を受け、引き続き成果と課題の更なる検証
- ② 時代の変化に即応した指導体制と教育環境の整備
- ③ 優秀な教職員の確保と教職員研修体系の充実

#### (2) 進路実績の向上

#### (3) クラブ活動の活性化

### 2. 安定性、持続性、発展性を担保できる経営の展開

#### (1) 経営基盤の安定化・・・財務体質の強化

#### (2) ガバナンスの強化

#### (3) 生徒活動募集の強化

#### (4) 働き方改革に繋がる組織整備と教職員の処遇改善

#### (5) 安全安心な学校づくり・ハラスメント対策など危機管理体制の強化

### 3. 全員参画型組織の構築

#### (1) 高い目標への挑戦

#### (2) 全員が参画し、全員で方策を決め、全員で実行する組織づくり

#### (3) PDCAサイクルを活用した継続的改善

### 3. 中・長期の課題と展望

本学園は、学園の建学の精神「隠徳を積む者は必ず其の栄を享ける」の具体的明示の「誠実で信頼される人」を作るために、全学園の叡智を結集して発展に努め、伝統を大切にするとともに新しい時代の流れにも的確に対応することで、将来社会に貢献できる生徒の育成に取り組んできた。

生徒募集の対象となる三重県内の小学生及び中学生数は年々減少傾向であり、また物価の高騰や人件費の増加などもあり、私立学校を取り巻く経営環境はますます厳しい状況に置かれています。

その中で安定した経営を行うには、募集定員の充足と財務体質の強化、両校の魅力の向上、そして優秀な教職員の確保が課題であり、そのために生徒・保護者・地域の満足度が上がるような教育環境の充実・整備に取り組む魅力ある学園としていく必要があります。

自己肯定感や幸福感など生徒と学校（教職員）一人ひとりのウェルビーイングの向上が大切であり、そのために、生徒・保護者が満足できる良好な教育内容及び教育施設環境の提供、並びにそれらを実現するための組織づくりが求められています。また、その組織を支えるための社会の要請に応え得る実効性のあるガバナンス改革を推進するとともに経営基盤の強化を図っていきます。

#### 1. 教学面において

##### (1) 授業の充実

国の新たな教育改革（高大接続改革）にむけて、学力の3要素（知識の習得、思考力・判断力・表現力の育成、主体的・協働的に学ぶ態度）を育成するため、高等学校コース制改革の完成及び中等教育学校の確立を受けた成果と課題の検証、ICT機器の導入による指導方法の改善を図り、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業の展開を推進します。

##### (2) 進路保障と進学実績の向上

個々のニーズに合った進路の選択を可能にできる授業を展開するため、授業評価等を活用した授業内容の改善に努め、基礎学力を保障するとともに進路実績の向上につながる取り組みを推進します。

##### (3) ICT教育の充実

BYADを基盤としたICT教育の充実や自宅学習生徒等へのICTを活用した学習支援の研究を行います。

##### (4) グローバル教育の推進

グローバル化に伴い、多様な人々や異文化との関わりにおいて違いに対する寛容さを培い、国際交流を活発に行い、共通の倫理観・価値観を発見できる機会を増やします。また、英語等の語学力・コミュニケーション能力を育成する取り組みを推進します。

##### (5) コミュニケーションの重視

生徒間、職員と生徒の間、職員と保護者の間、職員間の良好なコミュニケーションを意識して教育活動にあたります。

##### (6) 魅力ある図書館活動と快適な環境づくりの推進

図書資料の充実や生徒活動の支援など魅力のある環境づくりを推進します。

#### 2. 経営面において

##### (1) 学校の教育活動が円滑、闊達、躍動的に展開できる組織づくりと働き方改革の推進

新しい価値を創造することができる学校組織を目指し、教職員の健康と安全を守る体制づくりを念頭に置き、働き方改革を進め、教職員が意欲をもって最大の力を発揮できる体制の構築を目指します。

具体的には、優秀な人材の確保、女性が活躍できる仕組みづくり、コンプライアンス遵守、DX推進による業務プロセス改善に取り組みます。

(2) 生徒・保護者が満足できる良好な教育施設環境の提供

計画的に施設設備の整備を行うとともに、生徒の生命・身体にかかわる課題解決を優先的に実施していきます。

(3) 地域社会との良好な関係の維持発展

「学校の周辺から地域へ」と活動とその範囲を拡大して行きます。具体的には、地域活動への参加など地域との連携を図り、地域の人々から必要とされる教育機関を目指します。

(4) 経営基盤の強化

教育活動を円滑に行うための資金確保、内部留保の充実を図ります。具体的には、広報戦略の強化などにより募集定員の充足を図るとともに、効率的・効果的な資産運用や寄付金収入等の資金の確保に取り組みます。また、総人件費の最適化にも十分留意します。

令和7年 3月 27日

理事長 渡辺 久孝

## Ⅱ 事業計画書

### 1. 法人 (Corporation)

---

本学園は、平成26年4月1日に学校法人享栄学園から分離独立し、新しく学校法人鈴鹿享栄学園として発足して12年目を迎えました。創立以来、多岐にわたりご支援・ご協力をいただきました皆様方に深く感謝するとともに、今後さらなる期待に応えられる学園として成長を継続し、皆様から信頼される学校づくりに鋭意努力していきたいと考えております。

近年、私学を取り巻く状況は、少子化の影響から生徒募集における競争の激化により、財政環境も非常に厳しくなっております。しかし、厳しい環境下においても、本学園が持続的に発展していくために、バランスの取れた適正な予算配分と健全な経営資源の運用により改革を推進してまいります。

令和7年3月に高等学校、中等教育学校併せて397人の卒業生を送り、令和7年度入学生は4月まで確定を見ないこの時期、厳しい環境を見据えたうえで、経営及び教学の共通目標として、次の活動を行います。

#### 1. 不断の改革・改善

- (1) 高等学校コース制の完成と中等教育学校の確立を受け、引き続きその成果と課題を抽出し、明らかになった重点課題の改善に取り組みます。
- (2) 令和7年4月に施行される私立学校法改正の主旨に則り、ガバナンスの強化に取り組みます。

#### 2. 教育内容の充実（授業品質の向上）

##### (1) 主体的・対話的で深い学び

主体的・対話的で深い学びの授業展開、ICT機器を活用した授業の研究・充実・推進を図るとともに、そのための研修や互見授業の充実を図ります。

##### (2) 探究活動

生徒が論理的思考力・判断力・表現力を習得できる教育を展開し、生徒自ら問いを立てて、それに対して答えていく主体的な学習を進めます。

#### 3. 教職員の資質向上

##### (1) 教職員研修の充実

初任者研修・2年目研修（令和元年度から実施）、中堅研修（令和2年度から実施）、非常勤講師の授業研修（令和6年度から実施）、授業経験のない初任者対象の授業研究（令和3年度から実施）、経験を問わず授業力向上を目指すブラッシュアップ研修（令和7年度から実施）などを今後も継続し、また、期首面談等において校長と職員の対話のもと個に応じた研修を奨励し、資質向上を図ります。

##### (2) 優秀な人材の確保

優秀な教職員の確保のため、働き方改革を踏まえ教職員の待遇等の見直しを検討します。

##### (3) グローバル人材育成のための指導者養成及び体制づくり

海外大学進学、中・長期留学の相談指導体制づくりのため、また、研究活動推進のため、情報収集及び教員研修の充実を図ります。

#### 4. 施設面、教育環境の整備

計画的に整備するとともに生徒の生命・身体にかかわるような喫緊の課題については、優先的に実施していきます。

##### (1) 施設・設備の充実

老朽化した施設・設備の改修を行うとともに、施設設備の中期計画を策定し、順次実施します。

##### (2) 情報メディア教育センターの充実

主体的に考え、学び、実践し、成長できる場所としての情報メディア教育センター（EMC）のより一層の有効活用を図ります。

##### (3) 教職員の働き方改革

ICTを活用した業務効率化を推進するとともに業務の見直しによる負担の軽減を図ることとで時間外勤務の削減に取り組みます。一方、公立学校の教職調整額など諸手当の改善状況を踏まえ、見直しに取り組みます。

##### (4) クラブ活動の環境整備

校外の練習会場活用の支援など、クラブ活動の環境改善に取り組みます。

##### (5) 資金の運用

安全性を重視し、流動性及び収益性の観点も考慮して資金の運用を行います。

#### 5. その他

令和7年度から学納金の引上げを行いますが、この貴重な財源を有効活用するとともに、光熱水費をはじめとする諸物価の高騰に対応するため、経費の節減に引き続き取り組みます。

#### 6. 予算編成及び運用

教学及び経営の事業計画の実行に向けて、財務指標の動きを注視した予算を編成するものとします。

##### <財務指標>

	令和7年度	令和6年度	全国平均 ～令和5年 度決算～
	当初予算	第2回 補正予算	
事業活動収支差額比率	△3.5%	0.0%	2.4%
人件費比率	73.9%	69.5%	63.0%
教育研究経費比率	25.0%	25.3%	29.5%
管理経費比率	4.9%	4.9%	7.2%
人件費依存率	137.1%	125.7%	119.5%
基本金組入後収支比率	110.4%	110.5%	108.5%

## 2. 鈴鹿高等学校 (Suzuka High School)

### 1. 教学改革

#### (1) 教育充実のための取り組み

令和7年度は、令和2年に改革した3つのコース改革（特進・探究・総合）が6年目を迎える。これまで3回の卒業生を巣立たせてきた教育内容を改革委員会で検証し、各コースで軌道修正、改善を加えながら各コースの完成度を高めていく。

本年度よりスクールポリシーをWebページ等に公開する。グラデュエーション・ポリシー（：育成を目指す資質・能力に関する方針）には探究的な学びに力を入れることを各コース別に盛り込む。生徒自らが現状を把握し、課題を見つけ、それを克服する方策を考えて実践することがこれからの変化が激しい時代を生き抜く力を養い、生徒・保護者・地域の満足度を向上させることに繋がると考える。

#### (2) 各コースの方針（カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成及び実施に関する方針）

##### ① 特進コース

ア) 国公立大学進学を目指して、5教科の知識・技能をバランスよく学び、さらに思考力・判断力・表現力を身に付ける。

イ) アクティブラーニング型授業や、総合的な学習の時間を通じて日常的に主体性・多様性・協働性を身に付ける。

ウ) 学校外部との連携活動を通して、社会につながるスキルを身に付ける。

##### ② 探究コース

ア) 探究活動等の生徒主体の活動を行い、体験を通じた学びの実現を目指す。

イ) 論理コミュニケーション・小論文指導を通じ、読解力・論理的思考・表現力を高める。

ウ) 東海圏の4年制大学合格を目標に、学力とキャリア意識の向上を図る。

##### ③ 総合コース

ア) 多様な進路希望に合わせて一人一人の個性を伸ばす。

イ) 高大連携や体験学習を通じて、希望進路の実現を目指す。

ウ) 2年次より幼児教育系、看護・医療系、総合進学系の選択ができる。

#### (3) 研修体制の確立

##### ① 初任者（1・2年目）研修の充実

専任の研修講師を招き、研修を時間割に組み込み、1年間を通して実施する。

##### ② 中堅者研修の充実

本学園10年～15年目の教員の授業研究を軸に、研修講師及び外部有識者を招き実施する。

##### ③ ブラッシュアップ研修 外部指導者による集中指導（年10回 本年度数学）

##### ④ 教育先進校に学ぶ

ICT教育や先進的な教育を行っている学校への視察及び研修講師の派遣を依頼する。

##### ⑤ 多様な入試形態に対応するための研修

探究活動・小論文・面接等の指導研究を外部アドバイザーを招いて実施する。

### 2. 生徒募集・入試に係る事業

本学の教育方針をよく理解し、本学で学びたいという意欲が高い生徒（アドミッション・ポリ

シー：入学者の受け入れに関する方針）を受け入れるために、受験生に必要な情報を多様な募集・広報活動で発信し、入学者の確保を図る。どのような状況下でも受験生・保護者にとって有効な方策を見出し実践する。

- ① 入学者確保のための分析・戦略、及び推薦入試の募集活動強化
- ② 広報活動の活性化（デジタルコンテンツを一層充実させる）
- ③ 在校生を巻き込んだ魅力ある広報イベントの企画
- ④ 中学校・塾との連携強化（学校訪問・塾訪問強化）
- ⑤ 地域への啓発活動（学校通信等の発行）
- ⑥ 奨学生制度の宣伝
- ⑦ ホームページ・インスタグラム・ショート動画等のツールで、鈴鹿高校の魅力の発信
- ⑧ 同窓会組織へ積極的にアプローチする
- ⑨ 地元メディアとの関係構築を強化し、鈴鹿の魅力発信に努める

### 3. 生徒支援事業

#### (1) 支援事業の充実

多様な表現活動と学習意欲を高めるカリキュラムの充実を図り、知識・技能の習得を基に思考力・判断力・表現力を育成するための工夫を全教員・全教科に取り入れる。

- ① 基礎学力の徹底修得と多様な表現活動の充実
- ② 鈴鹿大学、皇學館大学、鈴鹿医療科学大学との高大連携を推進する。
- ③ 現状の課題に沿った教育相談体制を整える。

#### (2) ICT環境の整備

生徒用端末機器の利用推進を図る。

#### (3) 教育活動をPDCAサイクルで検証

授業評価・保護者アンケート、学力分析によるPDCAで改善を目指す。また、教育目標の具体化・数値化を図り、より客観的な評価ができるようにする。

- ① 授業アンケート・保護者アンケート（7月・12月実施）の実施
- ② 学力分析
- ③ 外部研修を積極的に活用し力量向上を図る。

#### (4) 国際交流の充実

国際化が加速する現代において、高校生の教育に不可欠な国際交流事業を積極的に推進し、留学生の受け入れを拡大することで、異文化理解を深める。具体的には、鈴鹿中等教育学校と連携して希望制の多彩な留学プログラムを充実させ、生徒が多様な価値観に触れる機会を提供する。

- ① カナダ・オーストラリア・セブ島への留学プログラムの充実を図る。
- ② 多様な文化や価値観に触れる機会を提供する。

#### (5) クラブ活動の活性化

- ① 過去の実績に加え、さらに飛躍できるよう校内の環境整備を行う。
- ② 外部施設利用補助等の強化を行い練習環境を整える。

#### 4. 進路支援事業

確かな学力とキャリア観を育み、進路選択の幅を広げる。一人ひとりの進路実現に向けて適切な進路指導を推進する。多様化する大学入試制度に対応するため、小論文指導・面接指導の充実を図る。

- ① キャリア教育の充実
- ② 大学合格実績の向上
- ③ 就職内定率100%

#### 5. 地域連携・地域貢献事業

地元地域の清掃活動等での地域貢献及び本校行事への招待など地域との共生を図る。また、生徒会をはじめ、各クラブの施設訪問やボランティア活動を積極的に行う。

- ① 地元地域清掃活動、地元小学校・中学校への行事参加、及び出前授業参加
- ② 施設訪問及びボランティア活動の活性化

#### 6. 教職員の働き方改革

- ① 統合型校務支援システムの導入による業務効率化とシステムのさらなる改善。
- ② 教職員業務のスクラップ&ビルドの意識の醸成と実行。

### 3. 鈴鹿中等教育学校 (Suzuka Secondary School)

---

#### 1. 教学改革

- (1) 中等教育学校としての中期計画の策定と計画の実行
- (2) スクール・ミッションの前提となるスクール・ポリシーに沿った取組の推進
  - 1) グラデュエーション・ポリシー
  - 2) カリキュラム・ポリシー
  - 3) アドミッション・ポリシー協働して諸課題の解決に取り組み、よりよい社会づくりに貢献できる人の育成
- (3) 中等教育学校としての成果と課題の整理、改革方針の適宜見直し
- (4) 学校力向上を目指した研修体制の確立
  - ① 生徒が主体的に学び、習慣的に家庭学習に取り組もうとする意欲の醸成を図る指導力の向上
  - ② 互見授業の促進と充実した授業研究活動の定例化
  - ③ 教科会議の充実 → 指導と評価の一体化による授業改善と教科指導力の向上  
→ 知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力のバランスのとれた育成
  - ④ BYAD(Bring Your Assigned Device)を導入したICT教育の推進のための情報収集、研究
  - ⑤ 初任者研修の充実 系統的な初任者(1・2年目)研修を継続し、教員としての資質を向上
  - ⑥ 中堅研修 本校経験10～15年の教員による研究授業の実施
  - ⑦ ブラッシュアップ研修 外部指導者による集中指導(年10回 本年度数学)
  - ⑧ 先進校への計画的視察の推進
  - ⑨ 小論文・面接指導力向上など進路指導に係る研修の充実
  - ⑩ キャリア教育体系におけるベストプラクティスの更新と実践
  - ⑪ 学年主任会等における優れた取組業績の確認・継承機会の設定
  - ⑫ 期首・期末面談での教員個々のニーズに応じた研修の確認と機会の提供
- (5) グローバル教育の推進
  - ① 国際交流の充実  
姉妹校生徒間のオンライン交流、外国の方の講演会や交換留学による国際理解教育
  - ② 充実した海外研修旅行の実施と海外留学、帰国生・留学生等の受け入れ推進  
シンガポール・マレーシア研修(3年次)  
希望者制海外研修[オーストラリア姉妹校・カナダ・セブ島集中英語研修]等(4年次)
- (6) 総合的な学習の時間／総合的な探究の時間の充実  
「総合的な学習の時間」(前期課程)から「総合的な探究の時間」(後期課程)へ6年制の特徴を生かした全教員による指導体制の継続及び取組向上に向けた外部専門家の導入  
これまでのTheme Studyの成果と課題の整理による今後の改善方向の検討(含発信方法)

#### 2. 生徒募集・入試に係る事業

- (1) 受験者数増及び専願率の向上を目指した取組の成果と課題の分析
- (2) 入試広報活動に係る戦略会議の発足及び分析に基づく戦略の実行

- ① 塾(とりわけ小規模塾)との連携強化と、塾のみに頼らない生徒募集活動の研究と実践
  - ② SNSの重点的活用など、あらゆる情報発信技術・機会の駆使
  - (3) 医進・選抜コース、特進コースそれぞれの魅力化・特色化を図る研究・議論・校内研修会の実施
  - (4) 入学試験の在り方に係る研究
    - ① 多様な資質、能力を持った生徒(児童)の積極的な受け入れのための取組  
英検、スポーツ、個人的な活動等の評価
    - ② 受験生目線で見た適切な入学試験問題作成のための研究
  - (5) 説明会等イベントの充実
    - ① あそびとまなびの体験ラリーの実施
    - ② 公開授業、教育シンポジウム等の開催による広報活動  
英語塾や児童へのアピールとしての英語教育の取組公開  
確実な成果を上げている数学教育の取組公開  
科学部等による小学生向けのイベントの検討  
理科と英語科の協働によるサイエンス・イマージョンに係る研究と試行
  - (6) 中等教育学校の魅力を発信する広報活動
    - ① ホームページ、SNSを積極的に活用して生徒の学校生活を広く発信
    - ② 中等教育学校ならではの行事等についてメディアへ積極的に情報提供  
英語スピーチコンテスト、英字新聞、SGSS、GIS、弁論大会、鈴青祭、TS、  
ときめきサポート報告会等
    - ③ キャッチーで時宜にかなった学校案内リーフレットおよびポスターの作成
- ### 3. 生徒支援事業
- (1) 各学年での工夫した取組による学習習慣の定着とセルフマネジメント力、タイムマネジメント力の育成
  - (2) いじめを許さない生徒集団の育成 人権教育体系に基づく各学年の取組推進
  - (3) 教育相談・カウンセリングの充実  
不登校傾向の生徒や生徒間のトラブルに悩んでいる生徒に対する適切かつ迅速な対応と  
関係機関との情報共有
  - (4) 性に関する教育、人権教育の体系的推進
  - (5) BYAD導入を考慮した情報モラル指導の強化(SNSトラブル防止啓発のための講演会等実施)
  - (6) 生徒の主体性を尊重した生徒会活動の活性化
  - (7) クラブ活動の支援と生徒の主体的な活動の奨励  
ときめきサポート制度や各種コンクール、ボランティア活動等外部行事への  
参加奨励と社会性の涵養
  - (8) 資格取得支援等へのチャレンジの推奨(英語検定や漢字検定などの資格取得を奨励し表彰)
  - (9) SGSS活動の充実  
英字新聞作成、東海・全国のスピーチコンテスト出場を目指す英語表現力の育成等

- (10) 生徒防災リーダーチームの発足と育成、生徒の防災意識の向上
- (11) 効率的かつ効果的なスクールバスの運行に向けた成果と課題の整理

#### 4. 進路支援事業

- (1) 進路保障
  - ① 大学入試実績の向上、難関国公立大学20名以上、国公立大学及び有名私立大学50名以上
  - ② 各学年の模擬試験等のデータ分析を学校全体で共有、協議し、日常的な指導の充実を促進
- (2) キャリア教育の充実
  - ① キャリア教育の体系的推進 ベストプラクティスの更新と継承  
体験から学ぶ(1年次)、職業を知り、職業観・労働観を養う(2,3年次)、  
学部・学科を知る(4年次)、志望学部・学科・大学を明確にする(5年次)
  - ② 医学科進学者のための医系進学者育成プログラムの充実
  - ③ 小論文・面接指導体制(外部人材の導入など)の充実
- (3) 外部の優れた人材の活用  
大学教員や地域の事業主、卒業生等による講演会の実施
- (4) 皇學館大学をはじめとする大学との連携事業の実施  
学生による生徒の学習支援やインターン制度の研究及び教員採用の促進に係る連携研究

#### 5. 地域連携・地域貢献事業

- (1) 県内産業の魅力を知る探究学習  
県内企業経営者等のゲストティーチャーを招聘したキャリア教育と連動させた取組の実施
- (2) 地域清掃・通学路清掃活動の実施  
通学路や学校周辺の清掃(空き缶やごみ拾い)等生徒の主体的活動、地域住民との協働の  
推進
- (3) 生徒のボランティア活動の活性化と定着化  
定期的な地域施設訪問、交流を実施(生徒会・科学部・吹奏楽部等)

#### 6. 教職員の働き方改革

- (1) 統合型校務支援システムの導入による業務効率化とシステムのさらなる改善
- (2) 教職員業務のスクラップ&ビルドの意識の醸成と実行

#### 7. 創立40周年(令和8[2026]年)記念事業の準備

- (1) 記念講演講師との確実な連携とその他記念事業に向けた準備
- (2) 本館エレベータ設置に向けた寄付の募集

### Ⅲ 収支予算の概要

#### 1. 主な事業

事業名	内容	予算額
40周年記念館外壁補修工事	老朽化による工事	25,000 千円
機械警備の導入	校舎・職員室にセンサー等を設置	9,790 千円
5号館トイレ改修工事	和式から洋式に変更	5,500 千円
生徒用パソコン端末機器整備	EMC生徒用端末機の更新	7,600 千円
学内サーバー・ネットワーク機器整備	アクセスポイント増設	1,800 千円
面談スペース設置	中等教育学校に面談スペースを設置	2,000 千円
予算額合計		51,690 千円

## 2. 収支予算の要旨

### 1. 令和7（2025）年度当初予算の概要

#### （1）事業活動収支予算書

教育活動収支差額は△66,797千円、教育活動外収支差額は△2,530千円、両方を合わせた経常収支差額は△66,327千円となり、特別収支差額は10,141千円となる。

前年度繰越収支差額△20億73,361千円に、当年度収支差額 △1億63,254千円を合わせた翌年度繰越収支差額が△22億39,525千円となる見込みである。

#### ■事業活動収支予算書（前年度予算対比）（単位：千円）

科目	本年度予算額	前年度予算額	増減
A：教育活動収支差額	△ 66,797	4,207	△ 71,004
B：教育活動外収支差額	△ 2,530	△ 5,905	3,375
C：経常収支差額（A+B）	△ 69,327	△ 1,698	△ 67,629
D：特別収支差額	10,141	2,127	8,014
E：予備費	0	0	0
F：基本金組入前当年度収支差額（C+D-E）	△ 59,186	429	△ 59,615
G：基本金組入額合計	△ 106,978	△ 156,654	49,676
H：当年度収支差額（F-G）	△ 166,164	△ 156,225	△ 9,939
I：前年度繰越収支差額	△ 2,073,361	△ 1,917,136	△ 156,225
J：基本金取崩額	0	0	0
K：翌年度繰越収支差額（H+I+J）	△ 2,239,525	△ 2,073,361	△ 166,164

#### （2）資金収支予算書

資金収入は、前年度繰越支払資金の9億92,409千円と当年度資金収入16億57,262千円により、26億49,671千円となる見込みである。

資金支出の26億49,671千円から、当年度資金支出17億61,265千円を差し引いた8億88,406千円が翌年度繰越支払資金となる見込みである。

#### ■資金収支予算書（前年度予算対比）（単位：千円）

科目	本年度予算額	前年度予算額	増減
前年度繰越支払資金	992,409	1,007,065	△ 14,656
当年度資金収入	1,657,262	1,689,199	△ 31,937
資金収入の部合計	2,649,671	2,696,264	△ 46,593
当年度資金支出	1,761,265	1,703,855	57,410
翌年度繰越支払資金	888,406	992,409	△ 104,003
資金支出の部合計	2,649,671	2,696,264	△ 46,593

## 2. 事業活動収支予算書

(単位：千円)

		科目	本年度予算額	前年度予算額	増減		
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	910,027	909,267	760	<手数料> ・入学受験者数見込減 1,500千円収入減	
		手数料	62,175	63,675	△ 1,500		
		寄付金	2,230	2,930	△ 700	<経常費補助金> ・総生徒数減 2,165千円収入減	
		経常費等補助金	626,174	628,339	△ 2,165		
		付随事業収入	13,857	13,857	0	<雑収入> ・退職財団交付金増 45,668千円収入増	
		雑収入	70,512	25,794	44,718		
	教育活動収入 計 ①		1,684,975	1,643,862	41,113	<人件費> ・新規採用者、退職者等 58,491千円支出増 ・退職給与引当繰入額増 45,552千円支出増	
	事業活動支出の部	科目	本年度予算額	前年度予算額	増減		
		人件費	1,247,235	1,143,192	104,043		<教育研究経費> ・記念館外壁補修や生徒用パソコン等 36,163千円支出増 ・奨学金の見直し 10,893千円支出減 ・減価償却額減 19,365千円支出減
		教育研究経費	421,750	415,850	5,900		
管理経費	82,787	80,613	2,174				
教育活動支出 計 ②		1,751,772	1,639,655	112,117			
教育活動収支差額③ (①-②)		△ 66,797	4,207	△ 71,004			
教育活動外収支	事業活動収入の部	科目	本年度予算額	前年度予算額	増減	<管理経費> ・募集関連見直しや機械警備費用等 4,756千円支出増 ・スクールバス運行の見直し 2,582千円支出減	
		受取利息・配当金	2,984	736	2,248		
		その他の活動外収入	0	0	0		
	教育活動外収入 計 ④		2,984	736	2,248		
	事業活動支出の部	科目	本年度予算額	前年度予算額	増減	<受取利息・配当金> ・資産運用等 2,248千円収入増	
		借入金等利息	5,514	6,641	△ 1,127		
		その他の教育活動外支出	0	0	0		
	教育活動外支出 計 ⑤		5,514	6,641	△ 1,127		
	教育活動外収支差額⑥ (④-⑤)		△ 2,530	△ 5,905	3,375		
	経常収支差額 ⑦ (③+⑥)		△ 69,327	△ 1,698	△ 67,629		
特別収支	事業活動収入の部	科目	本年度予算額	前年度予算額	増減	<その他の特別収入> ・施設設備補助金 8,041千円収入増	
		資産売却差額	0	0	0		
		その他の特別収入	10,541	2,500	8,041		
	特別収入 計 ⑧		10,541	2,500	8,041		
	事業活動支出の部	科目	本年度予算額	前年度予算額	増減		
		資産処分差額	400	373	27		
その他の特別支出		0	0	0			
特別支出 計 ⑨		400	373	27			
特別収支差額⑩ (⑧-⑨)		10,141	2,127	8,014			

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増減
予備費 ⑪	0	0	0
基本金組入前当年度収支差額⑫ (⑦+⑩-⑪)	△ 59,186	429	△ 59,615
基本金組入額合計 ⑬	△ 106,978	△ 156,654	49,676
当年度収支差額 ⑭ (⑫-⑬)	△ 166,164	△ 156,225	△ 9,939
前年度繰越収支差額 ⑮	△ 2,073,361	△ 1,917,136	△ 156,225
基本金取崩額 ⑯	0	0	0
翌年度繰越収支差額⑰ (⑭+⑮+⑯)	△ 2,239,525	△ 2,073,361	△ 166,164
(参考)			
事業活動収入の部 合計	1,698,500	1,647,098	51,402
事業活動支出の部 合計	1,757,686	1,646,669	111,017

<主な科目の概要>

■教育活動収支の部

◇生徒数

(単位 人)

所 属	本年度数 (4/1現在見込)	前年度数 (R6.5.1現在)	増減
鈴鹿高等学校	970	961	9
鈴鹿中等教育学校	715	736	△ 21
合 計	1,685	1,697	△ 12

・入学見込数  
 高等学校 330人  
 中等教育学校 105人

◇学生生徒等納付金

学生生徒等納付金の主な内容は、授業料、入学金、教育充実費、施設維持費、授業料補助金である。

令和7年度生からの学納金値上による15,430千円収入の増額、入学見込み者数減による13,180千円収入の減額、入学金納入者数減による1,490千円収入の減額となる。

合計760千円収入の増額見込みである。

◇手数料

手数料の主な内容は、入学検定料、証明手数料、取扱手数料である。

入学受験者数見込み減による1,500千円収入の減額見込みである。

◇寄付金

寄付金の主な内容は、特別寄付金、一般寄付金、現物寄付金である。

前年度収入（駅伝等に係る寄付）による700千円収入の減額見込みである。

◇経常費等補助金

経常費補助金の主な内容は、国庫補助金、地方公共団体補助金である。

総生徒数減等による2,165千円収入の減額見込みである。

◇付随事業収入

付随事業収入の主な内容は、補助活動収入、スクールバス運行費収入である。

前年度予算額と同額とした。

### ◇雑収入

雑収入の主な内容は、施設設備利用料、退職財団等交付金、その他の雑収入である。

退職財団交付金の増による45,668千円収入の増額、前年度収入による950千円収入の減額見込みある。合計44,718千円収入の増額見込みである。

## 【事業活動支出の部】

### ◇教員数（実人数）

（単位：人）

所 属	本年度予算数			前年度予算数			増減		
	専任 常勤	非常勤	計	専任 常勤	非常勤	計	専任 常勤	非常勤	計
学 校 法 人	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鈴鹿高等学校	60	27	87	60	25	85	0	2	2
鈴鹿中等教育学校	51	25	76	48	26	74	3	△ 1	2
合 計	111	52	163	108	51	159	3	1	4

### ◇職員数（実人数）

（単位：人）

所 属	本年度予算数			前年度予算数			増減		
	専任 常勤	非常勤	計	専任 常勤	非常勤	計	専任 常勤	非常勤	計
学 校 法 人	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鈴鹿高等学校	8	11	19	7	12	19	1	△ 1	0
鈴鹿中等教育学校	3	6	9	3	4	7	0	2	2
合 計	11	17	28	10	16	26	1	1	2

<内訳>

・非常勤職員 4人  
 事務職員 3人  
 教育相談 ALT 6人  
 司書 3人  
 入試対策 1人  
 計 17人

### ◇人件費

人件費の主な内容は、教員人件費、職員人件費、役員報酬、退職給与引当金繰入額、退職金である。

新規採用者や退職者の増及び定期昇給等による58,491支出の増額、退職給与引当繰入額の増による45,552千円支出の増額となる。合計104,043千円支出の増額見込みである。

### ◇教育研究経費

教育研究経費は、教育研究活動などに必要な消耗品費、旅費交通費、光熱水費、委託報酬料、賃借料、修繕費、会費、奨学費などの支出である。

記念館の外壁補修等の修繕や生徒用パソコン等ICT関連費用などによる36,163千円支出の増額、奨学費の見直しになどよる10,893千円支出の減額、減価償却額の減による19,365千円支出の減額、合計5,900千円支出の増額見込みである。

### ◇管理経費

管理経費は、法人業務及び管理運営、募集活動に必要な委託報酬料、手数料、広報費、渉外費、印刷製本費などの支出である。

募集関連等の見直しや機械警備費用などによる4,756千円支出の増額、スクールバス運行の見直しによる2,582千円支出の減額となる。合計2,174千円支出の増額見込みである。

## ■教育活動外収支の部

### 【事業活動収入の部】

#### ◇受取利息・配当金

受取利息・配当金の主な内容は、その他の受取利息・配当金である。

資産運用などによる2,248千円収入の増額見込みである。

### 【事業活動支出の部】

#### ◇借入金等利息

借入金等利息支出は、鈴鹿高等学校、校舎建設資金、情報メディア教育センター棟建設資金の借入金利息である。

返済計画に基づき1,127千円支出の減額見込みである。

## ■特別収支の部

### 【事業活動収入の部】

#### ◇資産売却差額

資産売却差額の主な内容は、資産を売却した際の差額である。

前年度予算額と同額とした。

#### ◇その他の特別収入

その他の特別収入の主な内容は、施設設備に関する寄付金、施設設備補助金である。

機械警備導入などの施設設備補助金による8,041千円収入の増額見込みである。

### 【事業活動支出の部】

#### ◇資産処分差額

資産処分差額が主な内容である。

図書処分差額による27千円支出の増額見込みである。

#### ◇その他の特別支出

その他の特別支出の主な内容は、過年度修正額である。

前年度予算額と同額とした。

## 3. 資金収支予算書

(単位：千円)

	科 目				
	本年度予算額	前年度予算額	増減		
収入の部	学生生徒等納付金収入	910,027	909,267	760	
	手数料収入	62,175	63,675	△ 1,500	
	寄付金収入	2,230	2,930	△ 700	
	補助金収入	636,715	630,839	5,876	
	資産売却収入	0	0	0	
	付随事業・収益事業収入	13,857	13,857	0	
	受取利息・配当金収入	2,984	736	2,248	
	雑収入	70,512	25,794	44,718	
	借入金等収入	0	0	0	
	前受金収入	177,720	177,450	270	
	その他の収入	21,483	80,184	△ 58,701	<その他の収入> ・前年度の未収入金 46,748千円収入減 ・前年度特定資産取崩 11,953千円収入減
	資金収入調整勘定	△ 240,441	△ 215,533	△ 24,908	
	(当年度資金収入 合計)	( 1,657,262 )	( 1,689,199 )	( △ 31,937 )	
	前年度繰越支払資金	992,409	1,007,065	△ 14,656	<資金収入調整勘定> ・未収入金の減 46,388千円収入減 ・前期末前受金の増 21,480千円収入増
資金収入の部 合計	2,649,671	2,696,264	△ 46,593		
支出の部	科 目				
	人件費支出	1,178,240	1,119,749	58,491	
	教育研究経費支出	273,243	247,978	25,265	
	管理経費支出	79,926	77,693	2,233	
	借入金等利息支出	5,514	6,641	△ 1,127	<施設関係支出> ・本年度事業（機械警 備導入等） 15,000千円支出増 ・前年度事業（空調設 備工事等） 38,169千円支出減
	借入金等返済支出	84,859	87,359	△ 2,500	
	施設関係支出	15,000	38,169	△ 23,169	<設備関係支出> ・本年度事業（サーバ ーネットワーク機器整備等） 5,786支出増 ・前年度事業（太陽光 パネル設置等） 29,795千円支出減
	設備関係支出	7,120	31,129	△ 24,009	
	資産運用支出	70,265	24,418	45,847	<資産運用支出> ・退職給与引当特定資 産の増 45,847千円支出増
	その他の支出	65,569	89,269	△ 23,700	
	予備費	0	0	0	
	資金支出調整勘定	△ 18,471	△ 18,550	79	
	(当年度資金支出 合計)	( 1,761,265 )	( 1,703,855 )	( 57,410 )	
	翌年度繰越支払資金	888,406	992,409	△ 104,003	
資金支出の部 合計	2,649,671	2,696,264	△ 46,593		

## <主な科目の概要>

事業活動収支予算書における収支科目と内容的に相違のない科目については、省略とする。

### ■資金収入の部

#### ◇前受金収入

前受金収入の主な内容は、生徒が入学前に納める納付金等収入である。

次年度入学見込数の増による270千円収入の増額見込みである。

#### ◇その他の収入

その他の収入の主な内容は、前年度の未収入金（前年度退職者に対する三重県私学振興会からの交付金など）、各引当特定資産取崩収入である。

前年度の未収入増による46,748千円収入の減額、前年度の特定資産取崩による11,953千円収入の減額となる。合計58,701千円収入の減額見込みである。

#### ◇資金収入調整勘定

資金収入調整勘定の主な内容は、今年度末に未収となる見込みの期末未収入金、前年度に受け入れた前受金である。

未収入金の減による46,388千円収入の減額、前期末前受金の増による21,480千円収入の増額となる。合計24,908千円収入の減額見込みである。

### ■資金支出の部

#### ◇人件費支出

人件費支出は、事業活動支出より退職給与引当繰入額（68,995千円）を除いた金額である。

#### ◇教育研究経費支出

教育研究経費支出は、事業活動支出より減価償却額（1億48,507千円）を除いた金額である。

#### ◇管理経費支出

管理経費支出は、事業活動支出より減価償却額（2,861千円）を除いた金額である。

#### ◇借入金等返済支出

借入金等利息支出は、鈴鹿高等学校、校舎建設資金、情報メディア教育センター棟建設資金の借入金返済である。

返済計画に基づき2,500千円支出の減額見込みである。

#### ◇施設関係支出

施設関係支出の主な内容は、建物支出、構築物支出である。

本年度の事業（機械警備導入等）15,000千円増額、前年度の事業（空調設備工事等）による38,169千円の減額見込みである。合計23,169千円支出の減額見込みである。

#### ◇設備関係支出

設備関係支出の主な内容は、教育研究用機器備品支出、管理用機器備品支出、図書支出である。

本年度の事業（サーバーネットワーク機器整備等）による5,786千円支出の増額、前年度の事業（太陽光パネル設置等）による29,795千円支出の減額となる。

合計24,009千円支出の減額見込みである。

◇資産運用支出

資産運用支出の主な内容は、各引当特定資産繰入支出である。

退職給与引当特定資産の増による45,847千円支出の増額見込みである。

◇その他の支出

その他の支出の主な内容は、前年度に未払であった前期末未払金や、翌年度分を前払いしている前払金である。

前年度の未払金減や前払金の減による23,700千円支出の減額見込みである。

◇資金支出調整勘定

資金支出調整勘定の主な内容は、今年度分の経費で次年度に支払う期末未払金や、前年度に支払った前期末未払金である。

前期末前払金の増による79千円増額見込みである。

令和7（2025）年度財務比率表

○所属別内訳

(単位：千円)

科目	本年度予算額				前年度予算額				増減			
	学校法人	鈴鹿高等学校	鈴鹿中等教育学校	合計	学校法人	鈴鹿高等学校	鈴鹿中等教育学校	合計	学校法人	鈴鹿高等学校	鈴鹿中等教育学校	合計
学生生徒等納付金	0	574,427	335,600	910,027	0	563,916	345,351	909,267	0	10,511	△ 9,751	760
経常収入	4,865	1,053,484	629,610	1,687,959	2,617	998,473	643,508	1,644,598	2,248	55,011	△ 13,898	43,361
事業活動収入	4,865	1,064,025	629,610	1,698,500	2,617	1,000,973	643,508	1,647,098	2,248	63,052	△ 13,898	51,402
人件費	31,520	737,169	478,546	1,247,235	40,390	664,313	438,489	1,143,192	△ 8,870	72,856	40,057	104,043
教育研究経費	0	314,424	107,326	421,750	0	314,783	101,067	415,850	0	△ 359	6,259	5,900
管理経費	7,720	40,674	34,393	82,787	7,675	37,768	35,170	80,613	45	2,906	△ 777	2,174
経常支出	39,240	1,097,262	620,784	1,757,286	48,065	1,022,873	575,358	1,646,296	△ 8,825	74,389	45,426	110,990
事業活動支出	39,240	1,097,662	620,784	1,757,686	48,065	1,023,241	575,363	1,646,669	△ 8,825	74,421	45,421	111,017
基本金組入額	0	△ 99,461	△ 7,517	△ 106,978	0	△ 155,105	△ 1,549	△ 156,654	0	55,644	△ 5,968	49,676
基本金組入前当年度収支差額	△ 34,375	△ 33,637	8,826	△ 59,186	△ 45,448	△ 22,268	68,145	429	11,073	△ 11,369	△ 59,319	△ 59,615
※減価償却額	0	127,999	23,369	151,368	0	146,790	24,002	170,792	0	△ 18,791	△ 633	△ 19,424

○学校法人経費を生徒数按分で各所属別に配分した場合の経費

(単位：千円)

科目	本年度予算額				前年度予算額				増減			
	学校法人	鈴鹿高等学校	鈴鹿中等教育学校	合計	学校法人	鈴鹿高等学校	鈴鹿中等教育学校	合計	学校法人	鈴鹿高等学校	鈴鹿中等教育学校	合計
学生生徒等納付金	—	574,427	335,600	910,027	—	563,916	345,351	909,267	—	10,511	△ 9,751	760
経常収入	—	1,056,160	631,799	1,687,959	—	999,912	644,686	1,644,598	—	56,248	△ 12,887	43,361
事業活動収入	—	1,066,701	631,799	1,698,500	—	1,002,412	644,686	1,647,098	—	64,289	△ 12,887	51,402
人件費	—	754,505	492,730	1,247,235	—	686,528	456,665	1,143,193	—	67,977	36,065	104,042
教育研究経費	—	314,424	107,326	421,750	—	314,783	101,067	415,850	—	△ 359	6,259	5,900
管理経費	—	44,919	37,868	82,787	—	41,988	38,625	80,613	—	2,931	△ 757	2,174
経常支出	—	1,118,844	638,442	1,757,286	—	1,049,309	596,987	1,646,296	—	69,535	41,455	110,990
事業活動支出	—	1,119,244	638,442	1,757,686	—	1,049,677	596,992	1,646,669	—	69,567	41,450	111,017
基本金組入額	—	△ 99,461	△ 7,517	△ 106,978	—	△ 155,105	△ 1,549	△ 156,654	—	55,644	△ 5,968	49,676
基本金組入前当年度収支差額	—	△ 52,543	△ 6,643	△ 59,186	—	△ 47,264	47,693	429	—	△ 5,279	△ 54,336	△ 59,615
※減価償却額	—	127,999	23,369	151,368	—	146,790	24,002	170,792	—	△ 18,791	△ 633	△ 19,424

○財務比率

(単位：%)

比率名	全国平均 (R5年度)	本年度予算比率				前年度予算比率				増減比率			
		学校法人	鈴鹿高等学校	鈴鹿中等教育学校	合計	学校法人	鈴鹿高等学校	鈴鹿中等教育学校	合計	学校法人	鈴鹿高等学校	鈴鹿中等教育学校	合計
事業活動収支差額比率	2.4%	—	△ 4.9	△ 1.1	△ 3.5	—	△ 4.7	7.4	0.0	—	△ 0.2	△ 8.5	△ 3.5
人件費比率	63.0%	—	71.4	78.0	73.9	—	68.7	70.8	69.5	—	2.7	7.2	4.4
教育研究経費比率	29.5%	—	29.8	17.0	25.0	—	31.5	15.7	25.3	—	△ 1.7	1.3	△ 0.3
管理経費比率	7.2%	—	4.3	6.0	4.9	—	4.2	6.0	4.9	—	0.1	0.0	0.0
人件費依存率	119.5%	—	131.3	146.8	137.1	—	121.7	132.2	125.7	—	9.6	14.6	11.4
基本金組入後収支比率	108.5%	—	115.7	102.3	110.4	—	123.9	92.8	110.5	—	△ 8.2	9.5	△ 0.1



学校法人 鈴鹿享栄学園